

平成31年度(令和元年度)

一般財団法人

新潟県建設技術センター研究助成事業

活動報告書

建設業のイメージアップ・

女性活躍に関する調査・研究活動事業

にいがた土木女子会議

●活動の目的

建設業界の担い手確保を目的に、建設業界全体のイメージアップ活動を実施する。

特に、男女ともに働きやすく、女性も活躍できる業界であることを、これからの世代を担う、中学生や進路に影響を与えるその親世代を対象にイメージアップを図るため、女性土木技術者が土木の PR 活動の中心的役割を担って実施する。

また、県内の土木業界内で働く女性同士の交流を深め、働きやすい環境整備や担い手確保に向けた方策を検討する。

●平成 31 年度（令和元年度）活動実績

◎講演会・交流会

1) 発足 2 周年記念講演会・交流会

みんなで語る！みんなで創る！これからの建設産業

開催日：令和元年 10 月 3 日（木）

場 所：興和ビル 会議室（新潟市）

概 要：・みんなで語るこれからの建設産業

全員参加のワールドカフェ「本当に必要な働き改革とは」

・講演「女性活躍と建設産業を取り巻く現状について」

講師：建設産業女性活躍推進ネットワーク 幹事長 須田久美子氏

参加者：講演会 59 名、 交流会 34 名が参加

成 果：参加者全員が意見を出し合う、ワールドカフェ方式で意見交換を実施したことにより、テーマの「本当に必要な働き改革とは」に対して、様々な意見や課題を共有でき、働きやすい職場環境を構築するために、個人がどうすべきか、組織をどうすべきか、建設的な意見を出し合うことができた。また、講師の須田氏の講演により、女性を取り巻く労働環境について、現状と、国の施策の最新情報を聞くことができ、仕事に対するモチベーションアップとなった。

【ワールドカフェ】

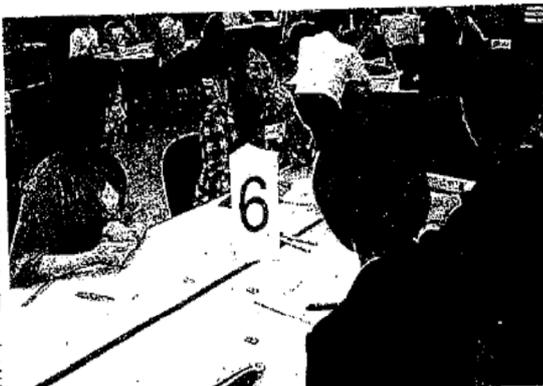


【須田氏の講演】



新潟日報 10月5日号 土木女子 職場の悩み共有 新潟で60人が意見交換

県内の建設業で働く女性でつくる「にいがた土木女子(NDJ)会議」(瀬戸民枝代表)のセミナーが3日、新潟市中央区で開かれた。建設会社や自治体の建



建設業で働く女性らが意見交換した「にいがた土木女子会議」のセミナー＝3日、新潟市中央区

設部門で働く女性ら約60人が集まり、日頃の悩みや働きやすい職場づくりについて話し合った。NDJ会議は業界で働く女性の姿を発信しようとして2017年に発足。セミナーでは、建設産業女性活躍推進ネットワーカー(東京)幹事長の須田久美子氏が講演し、「より良いインフラを将来に残したいという思いに男も女も関係ない。声を上げ続けていこう」と呼びかけた。

参加者はグループに分かれて意見交換し、職場を超えて交流を深めた。「結婚しても現場に出られるか、社内に前例がなくて不安」「社に『女性のロールモデルになつてくれ』と言われ

新潟建設新聞

2019年(令和元年)10月9日

これからの建設業語る

トボシヨが交流会を開催

NDJ会議

今年度からICT工をどの声が寄せられたといふ「受注者だけでなく、対等に試行実施する。う。19年度は長野県高山自治体によって熱意の有無が感じられる」ともあ

市中央区で「みんなで語る！みんなで作る！これからの建設産業」と題した交流会を開いた。建設業、コンサル、行政などから59人が参加。少人数のグループに分かれて意見を出し合うワイルドカフェ形式により「本場に必要なき方改革」をテーマに女性目線での建設業の未来を話し合った。参加者からは「若い人にいいた土木女子(NDJ)会議は3日、新潟

測量を実施し3次元データを作成。MOマシン・ガイダンス・バックホウを使った後継工では、施工履歴データを出力した出バーで回工事を担当する小柳建設の山岸ほか氏が現場で使用するICT

来月に新潟市で経営セミナー
新潟商工会議所
新潟商工会議所は11月15日に建設業経営革新・新分野進出セミナーを開



テーマは固いが話し合いは和やか

危ない交差点の

と直進車の事故だった。もう一件は法蓮寺墓地

「古い法律が残っている」と指摘し「100年後の建設産業のため、問題を見つけて声を聞かせてほしい」と呼び掛けた。NDJの瀬戸民枝代表は「土木建設業は担い手確保が課題になっている」と語る。

2) 女性・若手で考える建設産業の未来の集い 2019

開催日：令和元年 11 月 7 日 (木)

場 所：メディアシップ 新潟日報ホール (新潟市)

概 要： (公社) 日本技術士会北陸本部と共催で講演会・交流会を実施

基調講演 1 遠藤真理氏 (フリーアナウンサー)

基調講演 2 大竹 雄氏 (新潟大学准教授)

パネルディスカッション

基調講演者 2 名 + 下記パネラー

中山正子氏 ((株) キタック社長)

猪俣一成氏 (新潟県建設業協会青年部会長)

荒木克 氏 (ME 新潟の会・会長)

瀬戸民枝氏 (新潟県十日町地域振興局地域整備部副部長)

参加者：講演会 105 名、交流会 61 名参加

成 果：若手の経営トップリーダーや女性リーダーを交え、建設業界の現状や今後期待されることなどをパネラーとともに、参加者と意見交換を実施。期待される人材、期待される仕事の進め方など、若手の疑問を互いに情報共有した。交流会では、参加者相互の理解をより深めることができた。

【パネルディスカッションの様子】



【交流会後の記念撮影】



新潟日報 令和元年 11 月 9 日 (土)

建設業界の未来 女性らが考える

新潟で研修会

日本技術士会北陸本部(新潟市中央区)と、県内の建設業で働く女性でつくる「にいがた土木女子会議」は7日、建設・土木業界を志す若手や女性の技術者対象の研修会を同区の新潟日報メディアシップで開いた。写真。県内業界の若手



リーダーや女性経営者らが仕事への思いや夢について

語り合い、次代の担い手にエールを送った。

建設コンサルタントのキタック(同区)の中山正子社長は、建設業に限らず県内経済界では男性を女性より上位とする風潮が根強く、女性経営者の割合が全国最低水準にあると指摘。「社長の仕事は社の利益を上げて社員に給料を払い、株主に配当すること。男女の別は関係ない」と力

を込めた。

県建設業協会青年部会長を務める巴山組(阿賀町)の猪俣一成専務は「インフラを通して人の命と財産を守るができる」と業界の魅力の説明。「若者が思いを声に出せば業界は変わっていく」と訴えた。若手や女性の技術者や学生ら約70人が参加した。

◎土木出張PR

下記一覧表のとおり、県内22校で実施、のべ1,200人以上が参加。

概要：(一社)新潟県建設業協会、(一社)建設コンサルタツ協会 北陸支部、
(一社)新潟県測量設計業協会、及び新潟県の4者が合同で中・高校生向けに土木の魅力を実践PR。

参加者：のべ1,200人以上の中学生・高校生が出席

成果：中・高校生に対して、職業選択の一つに、魅力ある土木の存在をアピールする事ができた。

	地域		学校名	年	月	日	曜日	参加人数
1	村上	関川村立	関川中学校	1	6	3	月	37
2	新発田	新発田市立	川東中学校	1	9	25	水	24
3	新発田	新発田市立	本丸中学校	2	1	22	水	179
4	新発田	県立	中条高等学校	1	9	27	金	91
5	新潟	新潟市立	曾野木中学校	1	9	27	金	84
6	新津	五泉市立	川東中学校	1	12	5	木	31
7	津川	県立	阿賀黎明中学校	1	5	17	金	5
8	三条	加茂市立	七谷中学校	1	7	3	水	7
9	長岡	長岡市立	東中学校	1	5	22	水	126
10	長岡	小千谷市立	東小千谷中学校	1	6	7	金	40
11	長岡	県立	栃尾高等学校	2	2	18	火	27
12	魚沼	魚沼市立	広神中学校	1	7	11	木	60
13	魚沼	魚沼市立	小出中学校	1	11	15	金	69
14	魚沼	魚沼市立	湯之谷中学校	1	9	20	金	46
15	南魚沼	南魚沼市立	八海中学校	1	11	12	火	86
16	十日町	津南町立	津南中学校	1	5	30	木	52
17	十日町	十日町市立	下条中学校	1	5	16	木	20
18	十日町	十日町市立	十日町中学校	1	6	14	金	71
19	十日町	十日町市立	川西中学校	1	9	6	金	48
20	上越	上越市立	板倉中学校	1	6	4	火	62
21	糸魚川	糸魚川市立	青海中学校	1	5	14	火	51
22	佐渡	佐渡市立	赤泊中学校	1	7	19	金	9
								1,225

【赤泊中学校】



【関川中学校】



【津南中学校】



◎にいがた土木女子会議のPR

1) ホームページへの情報発信



講演会の案内や、出張PRの実施報告、新採用職員の紹介など、随時情報を更新し、PRに務めている。

2) PRグッズの作成

講演会、各種イベント等で配布するPRグッズを作成した。

●オリジナル軍手



●オリジナル名札ストラップ

